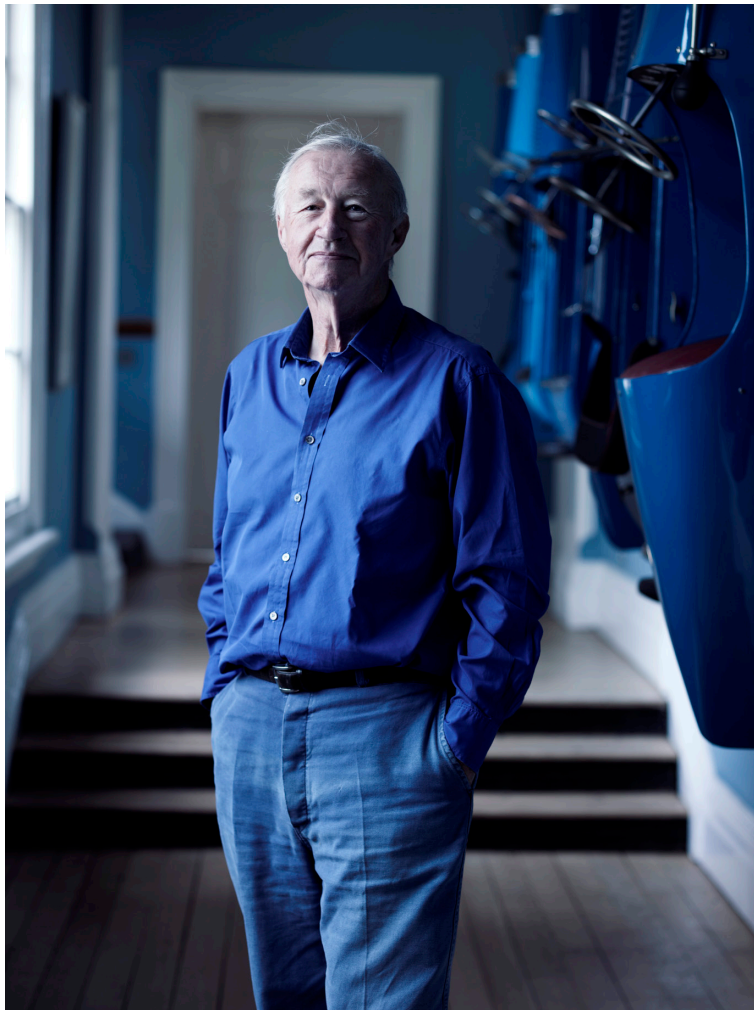


テレンス・コンラン

モダン・ブリテンをデザインする [仮称]

Terence Conran : Making Modern Britain



1 / サー・テレンス・コンラン、バートンコート自邸にて、2011年

Photo: Julian Broad

2024.10.12 Sat - 2025.1.5 Sun

主催：東京ステーションギャラリー [公益財団法人東日本鉄道文化財団]

企画協力：株式会社コンランショップ・ジャパン、泉川真紀事務所

協力：The Design Museum (英国)、Deyan Sudjic

展示構成：SKWAT

巡回先：2025年春、福岡市美術館

 TOKYO STATION
GALLERY

東京都千代田区丸の内1-9-1 JR東京駅 丸の内北口 改札前
TEL.03-3212-2485 <https://www.ejrcf.or.jp/gallery/>

戦後の英国文化最大の立役者とも称されるサー・テレンス・コンラン（1931–2020）。日本では1994年、西新宿にオープンした「ザ・コンランショップ」によってその名が知られ、バブル直後の日本における建築・デザインブームの火付け役となり多くのファンを得ました。

コンランは、1940年代終わりからデザイナーとして、また家具などの作り手として活動し、1964年にはライフスタイルを提案しつつプロダクトを販売する、当時まだどこにもないようなショップ「habitat（ハビタ）」の先駆的経営に成功します。さらには現在でいうセレクトショップや、モダン・プリティッシュと称された新しい料理スタイルのレストラン経営、都市開発プロジェクトやデザインミュージアムの設立、多数の著作など、ほぼ半世紀にわたってそのデザイン理念を精力的に実践し、世界中に影響を与えてきました。

コンランが提案しつづけた「生活の質に意識的になること」によって誰でも手に入れることができるモダンなライフスタイルや、「PLAIN, SIMPLE, USEFUL（無駄なく、シンプル、機能的）」をキーワードに、自身が手がけたプロダクトや愛したモノ、残された資料やさまざまなインスピレーション源をたどりながら、英国の生活文化を変えたといわれるコンランの世界観とその功績を紹介します。いわばコンランからのメッセージともなる本展は、展示デザインやグラフィックに気鋭のデザイナーを起用し、インスタレーションやビジュアルにこだわった展示方法も展開予定です。



2/若き日のコンランと彼がデザインしたコーン・チェア、1952年
Photo: Ray Williams

サー・テレンス・オルビー・コンラン

Sir Terence Orby Conran / 1931-2020

ロンドンの名門校セントラル・スクール・オブ・アーツ・アンド・クラフツ（現セントラル・セント・マーチンズ）でプリティッシュポップアートの旗手エドワード・パオロツィにテキスタイルを学んだのち、10代の終わりからデザイナーとして活動。家具製造やファブリックデザイン、最初のレストラン開業などを経て、1956年にコンラン・デザイン・グループを創立。1964年、後にライフスタイルショップのチェーン店へと成長する「habitat」一号店をロンドンに開き、デザインブームを巻き起こした。1973年には、ホームファニッシングショップ「ザ・コンランショップ」一号店をロンドンに開店し、日本やアメリカにも進出。いっぽうレストランやカフェなど50店舗以上を手がけ、イギリスの食文化にも影響を与えた。自身の財団によって、デザイン奨励と社会貢献を目的として1989年にデザインミュージアムを開館し、近辺のシャッドテムズ地区再開発にも大きく寄与した。デザイン関連の著書や手引書を50冊以上出版したが（日本語でもこれまで3冊の自伝が翻訳出版されている）、日本での人気も高く、日本企業とのプロジェクトも多数ある。

デザイン分野での功績と文化事業が評価され、1983年に英国王室より騎士（Knight Bachelor）に叙勲され、サー（Sir）の敬称を許された。



3/「habitat」と「conran's」のカタログ、1964年から70年代後半
Photo: Luke Hayes ©The Design Museum



4/念願叶い手に入れたミシュラン・ハウスにオープンしたBibendumレストランとザ・コンランショップ、1987年